

【七月の言葉（令和三年）】

にがうり にがみ

苦瓜の苦味が良いと言う親に

〃 そうだね 〃 と言える歳になり

子供の頃、大人が苦瓜（ゴーヤ）を美味しそうに食べている姿が信じられませんでした。どんなに美味しいものと食べてみたのですが、私には苦いだけだったからです。子供の味覚では、苦瓜は名前の通りで、ただ苦くて青臭いだけの野菜でしかありませんでした。しかし、歳を重ねると、その苦味が不思議と旨味うまみに感じられるようになりました。苦瓜が変わったのではなく、私の味覚がそのように育てられたのです。味覚の「成熟」です。

老いる意味とは「成長」ではなく「成熟」にこそあります。人間として深められ熟するのです。英単語の「OLD」には「老練な」という意味があります。ただ古くなるのではなく、人間として成熟した姿です。

仏教の「成仏」とは、人間として完熟した姿です。人間の理想の究極の完成形を意味します。しかし、残念なことに、煩惱だらけの私たちにとって自分の力量によって完成を目指すことは困難です。浄土真宗の教えは、「自力」ではなく「他力」という育はぐくみによって完熟へと向かう道なのですが、それを他人の力を頼りにする無気力な生き方と解釈するのは間違いです。太陽や雨水が野菜を成長させるように、自分ではどうしようもない私を完熟に向かわせる阿弥陀如来の育はぐくみを「他力」というのです。